

特定復興再生拠点区域の避難指示解除に向けた住民説明会

- 1 日 時 令和4年5月26日(木) 10:00~11:30
- 2 場 所 いわき市労働福祉会館 3階中会議室1・2(いわき市)
- 3 出席者(町側) 伊澤町長、徳永副町長、平岩副町長、館下教育長、中野住民生活課長、高橋健康福祉課長、中里戸籍税務課長、橋本秘書広報課長、横山復興推進課長、相楽農業振興課長、藤本建設課長、佐藤建設課支援員
出席者(国・県側) 辻本原子力災害現地対策本部副本部長、黒田原子力災害現地対策本部総括・広報班長、佐藤内閣府原子力被災者生活支援チーム企画官、須賀福島地方環境事務所環境再生課課長、中井復興庁原子力災害復興班参事官、檜福資源エネルギー庁原子力損害対応室企画調整官、井原福島地方環境事務所県中県南支所富岡分室支所長、生方福島県環境事務所環境再生課調査員、国分福島県避難地域復興課総括主幹兼副課長、山本資源エネルギー庁原子力発電所事故収束対応室室長補佐、栗栖福島地方環境事務所管理課課長

4 町民出席者 17人

5 町長あいさつ(伊澤町長)

皆さんおはようございます。長期に渡る避難生活大変お疲れ様です。本日は、特定復興再生拠点区域の避難指示解除に向けた住民説明会の案内をいたしましたところ、大変お忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。さて双葉町は、平成29年に国から認定を受けました特定復興再生拠点区域復興再生計画により、おおむね5年を目途に、同区域の避難指示を解除し、居住を可能とするため、放射線量の低減化や生活環境の整備・復旧などに取り組んでまいりました。去る4月8日に双葉町放射線量等検証委員会から特定復興再生拠点区域の放射線量の低減状況について最終報告書の提出がありました。同区域内の避難指示解除にあたっては放射線量は十分に低減している。そして、住民の避難指示解除に伴う放射線被曝のリスクは、これまでの予備的な実績評価を踏まえると十分低いと考えられると示されました。また、日常生活に必要なインフラや生活関連サービスも概ね整備・復旧が進んでおります。こうしたことから町としましては、特定復興再生拠点区域の避難指示解除要件の2つがおおむね達成されたものと考えております。つきましては、本日の住民説明会では、住民生活課長より、町民の皆さんに町の復旧・復興状況をご説明させていただき、その後皆様から、特定復興再生拠点区域の避難指示解除についてご質問やご意見を伺い、意見交換をしてみたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

6 国からのあいさつ（原子力災害現地対策本部 辻本副本部長）

現地対策本部の辻本でございます。本日はこのような機会を頂きまして誠に有難うございます。まず冒頭、11年を経過しても避難指示が継続し、双葉町の住民の皆様が避難生活が続いていることを改めてお詫び申し上げます。先ほど町長からもお話ございましたが、特定復興再生拠点の避難指示解除のタイミングが近づいてくる、そういう時期かと思っております。本日で9か所目の説明になります。これまで多くの会場で双葉町の住民の皆様から、多くのお叱りがまず第一にございましたけれども、ご不安ご質問等々いただきました。今日もこの場を使わせていただきまして、いろいろなご質問にしっかり答えていき、そのうえで双葉町住民の皆さんがスムーズなご帰還につながる、そういう時間になりたいと思っております。本日は内閣府他にも復興庁、環境省、福島県担当者が来ております。皆様からのご質問しっかり答えていこうと考えております。本日はよろしくお願い致します。

7 説明（双葉町 中野住民生活課長／内閣府原子力被災者生活支援チーム 佐藤企画官） ○双葉町の復興・再生に向けた取組について（特定復興再生拠点区域の避難指示解除に向けて）

8 質疑応答

■（町民：男性 三字行政区）

質問なんですけれども、一人娘が帰還をしたいという希望を持ってますけれども、私の地区は双葉町の中心地から離れている所にありまして、そこに上水道だとか、井戸水を使うとか合併浄化槽を使うとか、いろいろな選択肢というか帰還に関して判断するうえでいろいろな条件があると思うんですね。そこを双葉町の役場に相談をしようとする、この資料にあるように上水道の検査、下水道の復旧状況はまず建設課、上水道の使用開始には企業団の電話番号、井戸水の除染をやるか確認して下さいって環境衛生チーム、個別に私が個人的に役場に行って各課を訪ねてご相談、相談しなくてはいけないのか、それとも帰還の判断に向けて自分の悩み事、確認すべきことが町役場に行くとどなたかが窓口になってアシストしてくれるっていうか相談に乗ってくれて各関係部署の担当の方を呼んでいただけるか相談させるか、そういう体制はとられるんでしょうか、またはとっていただけると大変ありがたい。以上です。

（伊澤町長）

はい、ありがとうございます。今ご指摘のことなどいろいろな多岐にわたる問題点があるんで相談するときには課を跨いであちこちに行かなくちゃならないという事だと思います。これは一つの課の方にお声がけいただきましたら、他の課の方にも連携しましてその場所に対応させるように、対応できるようにしていきたいと思っております。町に帰町準備室という

のがありますから、帰町準備室。帰町準備室の方にお声がけいただければ全部対応させるように、そここの場所で対応できるようにしていきたいと思います。

■（町民：男性 長塚1行政区（？）町西地区）

町西の住宅、事前登録申し込みについてなんですけど…。駅西住宅の事前登録申し込みについてなんですけど、ネットで見ると番号について2となっているところは抽選による判定をするってなってますが、抽選で外れた場合はどうするのですか。

（横山復興推進課長）

復興推進課の横山と申します。よろしくお願ひいたします。駅西住宅の事前登録の件なんですけども、事前登録といひまして、86戸全部申し込み、事前に登録していただくというような形で、申し込み期間を設けております。そこでもしダブってしまう、ダブったところは抽選会というところで公平にやらさせていただきます、もしそこで外れた場合はですね、空いてるところをご紹介するというような形でお願いしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

（町民：男性 町西地区）

じゃあ次に行きます。あと私10日前位に駅西地区を見てきたんですが…

（橋本秘書広報課長）

すみませんマイク調子悪いですかね、ごめんなさいマイク別なもので対応させていただきます。

（町民：男性 町西地区）

駅の今の作ってる部分を見てきたんですが、どうも私の見た限りでは10月になんか本当に入れるのかっていう思いがしたんですが、大丈夫なんですか。現状で今家が何%進んで、道路が何%進んで、インフラ状態が何%進んでるんですか。

（横山復興推進課長）

今、駅西の状況でございますが、今ですね、先行の86戸ある内の先行の25戸を10月に入居できるような形で今工事を進めているという状況でございます。

（町民：男性）

私言っているのは何%ですかって言っているんですよ。10月に本当に入居できるようなパーセンテージなんですかって、言っている。

(伊澤町長)

はい、ありがとうございます。●●さんのお話しは進捗状況もそうですけども、10月入居予定ということで皆さんにいろいろお申込みいただいている災害公営住宅と再生賃貸住宅、こちらがちゃんと入居できるのかっていうご心配だと思います。これに関しましては今進捗率何%っていう資料正確なやつを手元に持ち合わせておりませんが、10月にしっかりと入居できるように順調に進んでいるというふうに現場の方から報告があがっております。

(町民：男性 町西地区)

もう一点いいですか。戸建ての家に新しく作る家に倉庫が付いてるんですけど、その脇の辺りに物置っていうのが付ける予定はないでしょうか。

(横山復興推進課長)

今のところすぐに物置を置くことについては想定しておりません。

(町民：男性 町西地区)

個人で持っていくのはいいんですね。

(横山復興推進課長)

敷地的に可能かどうかっていうところも含めまして、ちょっと個別にご相談させていただければと思います。

■ (町民：男性 中田行政区)

ちょっと今日のと離れる質問になっちゃうかと思うんですが。今年に入ってだったと思うんですが、規制委員会の更田さんが原発のデブリ等の除去がひょっとすると困難になるんじゃないかなってことを言ってる場面をニュースで1回だけ見たような気がするんですが。私の記憶違い、見間違いなのかなという思いがあるんですけども、びっくりしまして、そのことに関して町当局としては、この原子力発電所事故の最終的な収束の形ってというのはどういうものなのか、どんなものかっていうふうに思い描いていらっしゃるのか教えていただきたい。

(伊澤町長)

はい、ありがとうございます。今お話しありました規制委員会の更田委員長がデブリ取り出しに関して厳しいっていうふうなニュース報道だったということでよろしいんですね。まず今ご指摘いただきました廃炉に向けての町としての考え方ってというのは更地になる、いわゆるそういう状況が廃炉の収束というふうに考えております、さらに詳しい中身

のデブリの取り出し云々そういったものに関しましては国の方から説明をいただきます。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

ご指摘ありがとうございます。現地対策本部の辻本でございます。まずデブリの取り出しでありますけれども、ちょうど檜葉にロボットアームというものを置いていまして、これからまさに1Fに入れまして、隙間から入れてちょっと取っていくというものをまさに開始しようという状況であります。ただこれも報道等で出てはいますが、また最初本当にこのペンの先くらいのほんの小さなものでありますけれども、実際に取り出してというふうな具体的な作業に入っていくという段階でございます。先ほどご指摘いただいた更田委員長がどういうご発言をしたのか私も承知していませんけれども、かなり困難、長い道のりがかかるってことは更田委員長も仰ったと、私は別の機会で聞いたことがあります。今はこの小さな、ペンの先ぐらいでありますけど、本格的に溜まっているものを、キロ、トンものを上にあげていくという事をしないとイケないというところで、これから困難は予想されるが、しっかり取り組んでいくという話はしていたのは承知しております。

(資源エネルギー庁原子力発電所事故収束対応室 山本室長補佐)

ご質問ありがとうございます。今説明ありました通りですね、少しずつですけれども進捗しております。ご心配されるようなことがあるかもしれませんが引き続きですね、国としてもしっかり監視してまいりますのでどうぞよろしくお願い致します。

(町民：男性 中田行政区)

すいません、町としてそこを聞きたいんですけど、できないって言われた時ああそうですかで終わりになっちゃうんですか。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

聞き取りづらくてすみません。できないっていうことは我々そういうつもりは全くございません。しっかりやっていくっていうことは東電と国が約束している、事実でありますので廃炉に向けてしっかりデブリを取り出していくということについては、たとえ技術的に困難な壁があってもしっかり取り組んでいくというのが、政府及び東電の決意でありますし、それをしっかり規制委員会の更田委員長の所がしっかりチェックをしていくというものでありますし、それを実際どういうふうに進捗しているかというのは全て公開情報で対応していくと、こういう形でやっております。従って一言申し上げます、更田委員長、規制委員会のところは、規制庁は、国なり東電がしっかりやっているかっていうのを厳しくチェックをしていくという立場であります。

(町民：男性)

あとですね、私がちょっと言うのはおかしいですが、トリチウム水を海に捨てるっていう話がだいぶん進んでるようなことです。これ町はどんな立場でいらっしゃるのかそこをお聞かせください。

(伊澤町長)

トリチウム水の海洋放出についてという事だと思います。これにつきましては町としては国がしっかりとその判断をしたと、一番問題になっているのはいろいろな各職種の方、特に漁業者ですけども、海洋放出によって風評被害、そういった問題、いろいろな県内の県民の皆さんの理解っていうのが進んでいない状況にあるっていうふうな新聞報道が結構出ているような感じがします。そういったところに関して被害が起こるようなことのないようなしっかりとした国、東電の対応を求めている。そういったことがまずは住民理解、皆さんの理解がない中での判断っていうのは、町としては今のところ考えている状況ではありません。

(町民：男性 中田行政区)

私は素人なんであれなんですけども、トリチウムは安全だ安全だって仰っているようなんですけども、安全だったらばこの海でも捨てられるんじゃないかなと素人考えでは思うんですよね。なんで福島県の海だけ、あるいは福島県民、あるいは東北地方の漁民がそのリスクを背負い続けなければならないのか、非常に疑問ですね。私も宮城県辺りにだいたい海の方で友達がいるもんですから、いろいろ言われるんですけども、安全な水だったらばタンクローリーに積んで東京湾でもどこでも持ってけるんじゃないか、もうこれ以上福島沿で漁業、負担を負う必要がないんじゃないかっていうふうに私は素人ながらに考えてるんですけどどうなんでしょうか。

(伊澤町長)

はい、トリチウム処理水の考え方にはいろいろな方の考え方あると思います。町としましては、まず東京電力並びに国の方に申し出していることは、震災前、原子力発電所が稼働していた時に現実にトリチウム処理水は海洋放出してるわけですよね。その震災前のいわゆる、事故前の海洋放出をしていたトリチウム処理水とまず今回流そうとしているトリチウム処理水に関してしっかりと科学的に問題ないっていう根拠を示しなさい。いわゆる放射線の核種が、私も素人であんまりよく分かってないですけど60数種類あるって伺ってます。その中で今回いろいろな科学的な処理をした中で、トリチウム以外の放射線の核種に関しては所謂、ND 検出限界値以下になっているっていうふうな私は報告を受けております。じゃあ震災前と違うのかっていう話をした時に、いや震災前と変わりませんよと。それはだから科学的にしっかりと皆さんに説明をして、まず理解醸成をしていく取り

組みをしなくちゃならない。そこからの住民の皆さんに理解をしてもらうための努力が必要だろうと。詳しいことに関しましては国の方でそういった取り組みについての説明をしてもらいます。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

トリチウム水に対するご不安のご質問ありがとうございます。まず安全性、安全かどうかという点に関してであります。先ほど町長からご指摘いただいたとおり、安全であるという、科学的に安全であるというふうに我々も、政府としても承知をしています。ただ先ほどの話にもつながるんですけども、我々政府が東電が安全であるって言っても、もちろんご住民の方から信用されない。これまでの経験、これまでの状況を踏まえて、そういう感覚の方々がもちろん多い。その通りだと思います。その関係でちょうど4月の末と5月の頭に、先日も来てましたけども、IAEAという国際機関がございます。これは原子力のプロの科学的なメンバーが集まってる機関でありますけども、実は、非常に我が国に対して反対的立場をとる中国、韓国、ロシアの方たちは来てなかったみたいですけども、そういうメンバーも来られて、実際に1Fに行かれて設定を確認して、設備を見て現時点でのレビューという形でかなり安全性、安全を確保されてるとの報告をされているというふうに承知をしています。まず何よりも安全かどうかということに関しましては、我々政府だけではなくて、しっかり国際的な機関、第三者がチェックをしていく。こちら規制委員会も実はそういう意味では政府の機関ではありますけども、第三者でありますけどチェックをしていくという状況で、安全については確認を進めているところであります。そのうえでご質問がありました福島だけがリスクを負うべきがどうかと。安全であるならばどこでもタンクで持っていてもいいんじゃないかというふうなご指摘であります。これは実は私とは別のチームが東京の方でも担当しておりますけども、都会の方でも常日頃ご質問を受けている話であります。また機会を見つけてしっかり説明をさせていただければと思いますけども、技術的な問題等々含めまして現時点では福島の海からの放出という事についての考え方を皆様にも問われてるという状況かというふうに考えております。そのうえで先ほど町長からもありました、なによりも地元の方またご漁業をされてる方、そういったことの風評が起きないようにどうしていくのかと、実際に影響が起きないようにどうしていくのかというところについて、これは政府がしっかり対応させていただくような形でやっていければと思っております。何よりもご地元の皆様のご不安をいかに解消していくのかと、ご懸念をどう解消していくかというところについてもまたしっかり対応させていただければと思っております。

(町民：男性 中田行政区)

ありがとうございます。学者によってはトリチウムはなんぼ詰めても人体に影響あるよって言うてる学者もいますので、その辺はしっかり考えて、特に町としても対応を明確に

して行ってほしいなっていうふうに思います。あとですね、ごめんなさい、私ばかり喋って。国の方からもリアクションっていうんですか、廃炉に向けての予算ですね、どの程度なのかっていうのを前回の集会でも私申し上げたと思うんですけど。おそらく案外減ってるものではないかなと思いはあるんですけど、予算をがっちりつけてもらうように言われたっていうふうに本庁帰って言うて下さい。本庁に帰ったら予算いっぱいつけろって住民から言われたっていうふうに言うて下さい。よろしくお願いします。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

今ご指摘いただいた点、双葉の住民の皆様が不安にならないように、しっかり廃炉を進めていくっていう点、それ何よりも予算が必要であるという点、そのご指摘仰る通りだと思います。私も東京の方にしっかり今のご指摘についてはお伝えをいたしますし、現地の責任者として住民の方々からそういうふうな声あったという事を肝に銘じて、廃炉もそうですし、本日の復興再生拠点、帰還困難区域、双葉町の復興に関して改めて肝に銘じてしっかり対応したいと思います。

■ (町民：男性 三字行政区)

追加質問になって申し訳ありません。解除になった以降の、農地とかそれから自宅、自宅付近の山林、それがまた除染後も荒れ果ててっていうか、まあだんだん大きく将来なっていくわけですけども、それを伐採なり、あるいは伐木って言ったら失礼ですけども、解除前でしたらチップとかで持っていただいて処理されていましたがけれども、個人として整備した場合、これはどうすればいいのか、震災前でしたら乱暴でしたけれども、畑の脇でも燃やしちゃったりとか個人的にしてみましたけれども、その処理は個人に委ねられるということでもよろしいんですか。それとも、細かく刻んで処理するような、誰かがですよ、処理するようなことを継続するのかという質問です。

(伊澤町長)

今お話しの方は、簡単に言うと山とかなんかであった木を伐採したり伐木した時にそれを処理するのは個人でやんなくちゃならないかっていうことでいいんですね。どこか行政とか公でその対応をしてくれるのかっていう考え方でいいんですよね。まず問題としては線量の部分が一番ネックになってくるとは思いますけども、基本的に個人で対応できるような状況ではないと思います。これはやっぱり公、行政の方で対応しなくちゃならないんじゃないかなというふうに思っております。その考え方に関しては今日環境省の方、来ておられるので説明をして頂きたいと思っております。

(福島地方環境事務所 須賀環境再生課長)

環境省福島地方環境事務所では解体除染を担当しております須賀と申します。よろしくお

願います。本当に皆様のご協力のおかげで除染が進むことができました。感謝申し上げます。そのうえで廃棄物でございます。町の方の説明でも資料でもありました通り、まず1年間現在もそうなんですけども、ごみ、生活ごみ、それから片付けごみステーション回収と個別回収というのをやっております。従いまして個人の方の場合はですね、たとえば木を切ったときに搬出できるような形にさせていただくのをお願いするかもしれないんですけども、受付の窓口がありまして、そちらの方にご連絡いただきましたら個別に回収の方も承っております。これは今後解除後1年間対応させていただきます。それ以降については役割分担っていうことが出てきますけども、仮にですね、放射線等で普段処理できないようなものがあればご相談をさせていただいて、何かしらご協力できる場所があれば対応したいと思います。

(町民：男性 三字行政区)

今聞き忘れたんで、どちらに

(福島地方環境事務所 須賀環境再生課長)

今具体的な電話番号を承知していないんですけども、インターネットの方で検索していただければごみの回収窓口の方の連絡先出てくるかと思えますし、何か、資料の方の33ページの方にありますし、もし何かありましたら福島地方環境事務所ですとか、富岡分室の方にご連絡いただければご案内できますので、ご連絡いただければと思います。

(町民：男性 三字行政区)

はいありがとうございます。双葉高校とかいろいろなごみ収集片付けサポートセンターの収集可能なところだと屋内の出た、発生したごみっていう形で書いてあるので、要は外で解除後に出たそういう伐採とかも含めてっていう形でどうなのっていう質問でした。

(福島地方環境事務所 須賀環境再生課長)

それも含めてですね、ご相談いただけるかと、たとえば承知してる例ですと、フレコンとか、フレコンバックとかを町というかですね、出させていただいて、そこに詰めていただいて、家の前とかに置いていただいて、そこに回収に行って、またすぐダンプとかに積んでですね、回収し処理に回すとかやっておりますので、一度ご相談いただくと大体対応できると思うんですけども、対応できるできないご説明できると思いますんで、ご連絡いただければと思います。

(町民：男性 三字行政区)

はい、ありがとうございます。

■（町民：男性 両竹行政区）

田んぼの件でお聞きしたいんですけど、最近私は個人的に国の情報がないんですけども、田んぼは予定通り進んでいるのか、これからどんな風になっていくのか、田んぼに関して最近の情報があればお聞きしたいと思います。特に三ノ宮地区をお願いします。

（相楽農業振興課長）

農業振興課長の相楽と申します、よろしくお願ひ致します。三ノ宮地区の田んぼはどのように進んでいるのかということでご質問だと思うんですが、ご存じの通り今のところ、下長塚地区のですね、農地保全組合の皆さんにおいて、田んぼの除染後の除草であったり耕起であったりという保全管理作業を行っております。この保全管理作業につきましては、避難指示解除後 3 年間は保全管理ができるということで、そういう制度になっております。その 3 年後につきましては地元の方からのご説明にもあったと思いますが、新たな田んぼを管理してくれるような、新たな担い手の方がいらっしゃるか、いらっしゃれば地元の方とご説明、相談会をさせていただいて担い手の方を決めていくというような形になろうかと思いますが、当面につきましては保全管理作業を実施している組合の方で実施しているところでございます。大丈夫でしょうか。

（町民：男性 両竹行政区）

三ノ宮地区はまだ解除にならないの。解除になってるの。

（相楽農業振興課長）

今のお話ですけど、先ほど住民生活課長の方からご説明がありました、A3 判の大きな紙の資料、赤い色で染められた部分になりますので、避難指示につきましてはまだ解除になっておりません。特定復興再生拠点のままになっております。先ほどご説明がありましたように避難指示解除につきましては現在のところ本年の 6 月以降という事でご説明をさせていただいてるところでございます。

■（町民：男性 町西地区）

駅西の住宅に当選して入る場合に、入る場合に事前にその家を見に行くことはできるのでしょうか。

（横山復興推進課長）

そうですね、内覧会っていう形でやるかはちょっと未定なんですけども、見ていただくような形で進めたいと思います。

(町民：男性 町西地区)

何がないか、どんな状態なのか見ないとわかんないからね。状況は。必ずやってほしいと思います。よろしくお願いします。

9 閉会